

2. 日本語教育（1988～89年度）活動報告

(1) 実施概要

計	実 績
<p>• 目的 J I C A 研修及び文部省留学応募者に対し日本で専門分野の研修を受け日常生活を円滑に進めるために必要な日本語能力を養成する。</p> <p>• 活動 （授業） 日本語学習 J I C A 研修予定者について ひらがな、カタカナの習得 日本での生活に必要な会話の習得。 日本への適応能力の増加。 （含む、ビデオ等の視聴覚教育） 文部省留学予定者について 基本的な漢字の習得。 日本での授業に対応できる会話力。 日本への適応能力の増加。 （含む、ビデオ等の視聴覚教育）</p> <p>（教材整備） 必要に応じて作成、もしくは J I C A で使用している教材（練習帳、ビデオ等）を送付申請する。</p> <p>• 投入 人員 協力隊員 1名</p> <p>• 機材 必要に応じて。</p>	<p>• 目的 88年度 20名、89年度 9名に対して授業を実施している。日常生活に必要な語学力は身につけているが、専門分野で必要な語学能力には達していない。</p> <p>• 活動 時間割を定め授業を行った。 概ね、出発前に 200時間は確保されている。日本の習慣、伝統についてのオリエンテーションはジャパン・インフォメーションセンターから映画を借りたり文献を利用したりして随時行っている。 現在使用している教科書 1. 技術研修のための日本語（J I C A） 2. 技術研修のための日本語 Grammatical Notes 3. 仮名入門（国際交流基金） 4. 漢字入門（国際交流基金） 5. パナリング日本語会話 30 週 6. 日本語ジャーナル</p> <p>授業用にハンドアウトを作成したり、J I C A から教材を送付してもらっている。</p> <p>• 投入 協力隊員 桑村さと子 88.3～90.3 予定</p> <p>• 機材 ワードプロセッサ テープレコーダー 教科書・文献 その他</p>

(2) 現況等

1) 授業実施

88年度1クラス2～3、6、1名の編成でJICA研修員15名、文部省留学生5名、計20名に日本語教育を実施し、89年度は6、3名の編成でJICA研修員6名、文部省留学生3名に実施している。

2) 教育成果

日本語については日常会話はほぼ全員がある程度習得できたが、「現場実習の場で日本語による質疑応答ができる」レベルに達した者はほとんどいない。

(3) 問題点

1) 教室の確保

当大学の教育不足によって、オフィスでの授業を余儀なくされている。89年度は一応、旧農場管理棟の教室を使用しているが、恒常的確保には至っていない。

2) 学習者

日本語コースの対象は当学の職員・講師であり、日本語学習に当て得る時間が限られている。学内では、職務優先であり、要職を兼任している者もいることから、欠席が多くなり、授業についていくことが困難となる。補講、自習用の課題で補ってはいるが、十分に行えず終了するケースもある。

(4) 今後の見通し及び要改善点

1) 教室の確保

上記のように確保されつつある。

2) 職務遂行のために欠席が続く場合、補講や自習用課題の配布・添削により補うようにしているが、日本出発前の学期には授業数を軽減する等の学校側の配慮をお願いしたい。

(5) 評価・総括

88年度、かねて申請されていたワードプロセッサも到着し、機材は充実してきている。教室の確保等も少しずつ改善の方向に向かっており、全体的に整備されてきている。しかし、出席率の確保等、代々問題となっている点もあり、引き続き改善が必要である。何よりも、日本語の必要性を認識してもらえよう努力し、場合によっては、JKUCATの日本人スタッフの協力を求めていく必要があると思う。

日本語研修受講者

JICA研修員及び研修応募者

	氏 名	専 門	受入れ機関	受講期間
1	Mr. G. J. Nduati	農産物の流通	岡 山 大	1988.1～1988.5
2	Mr. J. M. Kario	土質基礎工学	大阪府大	1988.1～1988.5
3	Mr. P. M. Ndirangu	水 工 学	群 馬 大	1988.1～1988.8
4	Mr. J. M. Kabiru	電力供給とその利用	鳥 取 大	1988.2～1988.8
5	Mr. S. Wanjii	熱 工 学	岩 手 大	1988.2～1988.8
6	Mr. G. G. Wanyoike	制 御 工 学	岩 手 大	1988.2～1988.8
7	Mr. S. K. Kamau	機械設計工学	岩 手 大	1988.2～1988.8
8	Mr. P. O. Oketch	電力供給とその利用	鳥 取 大	1988.2～1988.8
9	Mr. P. I. Ngugi	土 木 建 築	派遣前研修中	1988.2～1988.8 1989.4～現在
10	Mr. S. Mugo	建 設 機 械	マルマ重車輛研	1988.5～1988.8
11	Mr. J. M. Thwairi	建 築 工 学	派遣前研修中	1989.4～現在
12	Mr. D. M. Wawaru	実 験 手 法	#	1989.3～現在
13	Mr. K. Ndungu	機 械 操 作	#	1989.3～現在
14	Mr. B. N. Mugai	植 物 栄 養 学	#	1989.4～現在
15	Mr. J. K. Mbuthia	印 刷 技 術	#	1989.3～現在

文部省留学生及び応募者

1	Mr. P. K. Kingara	電気通信工学	(不合格)	1987.5～1989.1
2	Ms. J. W. Mungai	応 用 統 計	広 島 大	1988.9～1989.3
3	Mr. S. W. Mugucia	農 業 機 械	留学前研修中	1988.9～現在
4	Mr. H. M. Warui	流 体 工 学	#	1988.10～現在
5	Mr. P. K. Kamita	発 送 配 電	#	1988.10～現在

第2章 Phase II 協力への指針

1. 要 請 の 背 景

ジョモ・ケニヤッタ農工大学は、ケニアの地方農村の振興に役立つ中堅技術者を養成することを目的に設立された高等教育機関であり、我が国は同大学設立のために、無償資金協力を含めて1980年4月以来10年に及ぶ技術協力を展開してきた経緯がある。

ジョモ・ケニヤッタ農工大学は設立本来の目的に沿い、大学とはいいながら中堅技術者を養成するための職業・技術訓練教育を行う高等教育機関(Middle College)として位置付けられてきており、本来の大学教育を行うUniversityではなかった。しかしながら、ケニアにおける大学教育の急激な需要増とそれを迎える大学施設の絶対的不足に直面して、ケニア政府は、施設・教育実績が特に優れているジョモ・ケニヤッタ農工大学を新しい大学として昇格させることを決定し、1988年9月1日から経過的措置として現ケニヤッタ大学の分校(Constituent College)に位置付けた。

ケニア政府は、この昇格決定に伴い、大学教育実施のための施設拡張に係る無償資金協力、さらに継続的技術協力を我が国に対して要請越したものである。

2. 要 請 内 容

我が国のこれまでの協力はジョモ・ケニヤッタ農工大学の2学部6学科に対する技術協力であった。今回要請されている協力も、これら2学部6学科を基本として開設される下記学士コースに対する技術協力である。ただし、ケニア側の準備不足のため、すぐに学士コースを開設できない学科は、経過措置としてディプロマコースの上級課程（HDコース）を実施する。

新コース開設に伴う学生数増員計画表（1988/89～1994/95）

（人）

年 コース	1988/89	1989/90	1990/91	1991/92	1992/93	1993/94	1994/95
<u>HDコース</u>							
建築コース			40	80	80	80	80
電気・電子工学科			40	80	80	80	80
機械工学科			40	80	80	80	80
小 計			120	240	240	240	240
<u>学士コース</u>							
園芸学科		40	80	120	160	160	160
農業工学科			40	80	120	160	160
食品工学科			20	40	80	80	80
ポストハーベストコース			20	40	80	80	80
土木工学コース			40	80	160	160	160
小 計		40	200	360	520	640	640
合 計		40	320	600	760	880	880

3. 先方の対応状況

(1) ユニバーシティカウンシルの設置

教官採用財政的事項、運営政策を含め、当大学の学士課程開設に伴い運営の最高意思決定機関となるユニバーシティカウンシルが未設置であり、Phase II に向けての具体的な協議は不可能であった。

先方は既にメンバーは選定済みであり、大統領の署名待ちであるが、若干の調整が必要となっているところ、9月中には第1回の会合を持つことになる(ミニッツ5-(a)参照)としている。

したがって同カウンシルが正式に発足した後、先方の教官の新規採用状況がある程度明らかになった段階で、再度 Phase II 協力に係る事前調査が必要である。

(2) 教官の新規採用状況

先方は本年度(1989/90)の予算で教官採用数127名、職員採用数1,061名分の予算を確保したとしている。(別表参照)

このうち本年9月開講予定の園芸学科については全教官、及び全学科のGraduate Assistantについては既に公募済みであり、また園芸学科を除く全学科のその他の教官についても1~2週間のうちに公募すると述べている。

ただし、予算で認められた教官数の何パーセントが充足できるか未知数であり、本年度の採用数が明確になった段階での協議が必要である。

特に工学部においては民間部門の需要も高い由であり、特別の配慮が必要となるものと思われる。

(3) シラバスの準備状況

学士課程、HD共に既にシラバスは完成しケニヤッタ大学のSenateに提出直前の由である。先方は学士課程導入計画を前倒して実施したいとの意向もあるやに仄聞しているところ、より現実に立脚したpragmaticな実施計画に誘導することが日本側で必要になってくる可能性がある。幸いユニバーシティカウンシル及びアカデミックボードに日本人専門家の参加が認められている(ミニッツ6-(b)(c)参照)ところ、我が方の積極的な発言が重要となろう。

4. 当方の今後の対応方針

(1) 前述のとおり現段階では実施協議（R/Dの作成）につなげるための事前調査が困難な面があったところから、再度先方準備状況が整った段階で、より具体的な事前調査が必要と思われる。時期的にはユニバーシティカウンシルの活動が軌道に乗り、本年度教官採用の結果がある程度明確になると予定される年末または年初が最適となろう。

(2) 協力の目標

JKUCATは過去10年間、その創立から出発し、中堅技術者の養成を目的とした教育機関の確立を目指した我が国協力によりケニア国内において確固たる地位を確立するに至った。

Phase II 協力においては10年間の実績を踏まえ学士及びHDコースの開設を図ることを目的とするものである。

当大学が、その創立以来、我が国の全面的な協力により成長してきた過去の経緯及び学士課程においても過去の教育の延長線上の教育、すなわち、より実技に重点を置いたユニークな上級教育を目指していることに鑑み、Phase IIにおいてもアカデミックな側面はもとより、運営方針、体制の確立についても我が国の協力が必要となろう。

したがって本件協力は、既存の農・工学部に限っていえば、大学全体に対する協力としての性格を持つものであり、大学の成長過程の各段階において種々の協力目標の設定が可能である。

しかしながら、当初から遠い将来の目標を具体的に設定し、長期間にわたる協力をコミットすることは、過去の経験から得策ではなく、各段階において進捗状況をチェックしつつ、現実性のある目標設定を行い、着実な成長を図ることが肝要である。

別表 新規教官採用計画 (1989/90)

DEPARTMENT	PROFESSORS DRT. ACCT.	ASSOCIATE PROFESSORS DRT. ACCT.	SENIOR LECTURERS DRT. ACCT.	LECTURERS DRT. ACCT.	TUTORIAL FELLOWS DRT. ACCT.	GRADUATE ASSISTANTS DRT. ACCT.	TOTAL DRAFT ACCEPTED
<u>FACULTY OF AGRICULTURE</u>							
AGRICULTURAL ENGINEERING	1	1	4	8	4	4	22
FOOD TECHNOLOGY	1	1	4	8	4	4	22
HORTICULTURE	1	1	4	8	4	4	22
	3	3	12	24	12	12	66
<u>FACULTY OF ENGINEERING</u>							
BUILDING & CIVIL ENGINEERING	1	1	3	8	4	4	21
ELECTRICAL & ELECTRONICS	1	1	3	8	4	5	22
MECHANICAL ENGINEERING	1	1	6	9	4	4	25
	3	3	12	25	12	13	68
<u>FACULTY OF SCIENCE</u>							
BOTANY	1	1	2	4	4	2	14
CHEMISTRY	1	1	3	4	4	2	15
MATHEMATICS	1	1	3	6	4	4	19
PHYSICS	1	1	3	6	4	2	17
ZOOLOGY	1	1	2	4	4	2	14
	5	5	12	24	20	12	79
<u>FACULTY OF SOCIAL SCIENCES</u>							
LANGUAGES & COMMUNICATION DEVELOPMENT STUDIES	1	1	3	6	2	2	15
	1	1	4	8	4	4	22
	2	2	7	14	6	6	37
TOTAL	13	13	44	87	50	43	250
							127

ADMINISTRATIVE, CLERICAL, CATERING, TECHNICAL AND ANCILLARY STAFF

	SENIOR ADMINISTRATIVE STAFF		CLERICAL, CATERING AND TECHNICAL STAFF		ANCILLARY STAFF		TOTAL	
	DRT.	ACCT.	DRT.	ACCT.	DRT.	ACCT.	DRAFT	ACCEPTED
PRINCIPAL'S OFFICE	3	2	5	5	5	5	13	12
DEPUTY PRINCIPAL	1	3	1	3	3	15	5	21
REGISTRAR (ADM)	8	4	25	19	34	28	67	51
REGISTRAR (ACD)	8	4	21	16	17	13	46	33
SECURITY SERVICES	1	-	7	7	95	85	103	92
AUDIT SECTION	1	1	5	5	5	5	11	11
FINANCE DEPARTMENT	13	3	30	20	37	33	80	56
FINANCE STORES	-	-	8	9	36	31	44	40
LIBRARY DEPARTMENT	14	8	37	27	41	34	92	69
ESTATES DEPARTMENT	2	1	11	10	134	123	147	134
TRANSPORT SECTION	-	-	4	5	39	34	43	39
HEALTH CENTRE	2	1	22	15	14	13	38	29
CATERING DEPARTMENT	2	-	25	14	223	130	250	144
CAFETERIA SECTION	-	-	2	2	20	16	22	18
STUDENTS WELFARE	3	3	2	2	7	3	12	8
RESIDENTIAL SERVICES	-	-	20	6	126	48	146	54
FACULTY OF AGRICULTURE	3	1	41	17	149	97	193	115
FACULTY OF ENGINEERING	1	-	39	14	52	37	92	51
FACULTY OF SCIENCE	1	-	41	22	44	44	86	66
FACULTY OF SOCIAL SCIENCES	1	-	7	6	12	12	20	18
TOTAL	64	31	353	224	1,093	806	1,510	1,061

別表 新規教官採用計画 (1989/90)

DEPARTMENT	PROFESSORS		ASSOCIATE PROFESSORS		SENIOR LECTURERS		LECTURERS		TUTORIAL FELLOWS		GRADUATE ASSISTANTS		TOTAL	
	DRT. ACCT.		DRT. ACCT.		DRT. ACCT.		DRT. ACCT.		DRT. ACCT.		DRT. ACCT.		DRAFT. ACCEPTED	
<u>FACULTY OF AGRICULTURE</u>														
AGRICULTURAL ENGINEERING	1	-	1	1	4	2	8	5	4	2	4	2	22	12
FOOD TECHNOLOGY	1	-	1	1	4	2	8	5	4	2	4	2	22	12
HORTICULTURE	1	1	1	-	4	2	8	5	4	2	4	2	22	12
	3	1	3	2	12	6	24	15	12	6	12	6	66	36
<u>FACULTY OF ENGINEERING</u>														
BUILDING & CIVIL ENGINEERING	1	-	1	1	3	2	8	5	4	2	4	2	21	12
ELECTRICAL & ELECTRONICS	1	-	1	1	3	2	8	5	4	2	5	2	22	12
MECHANICAL ENGINEERING	1	-	1	1	6	3	9	6	4	2	4	2	25	14
	3	0	3	3	12	7	25	16	12	6	13	6	68	38
<u>FACULTY OF SCIENCE</u>														
BOTANY	1	1	1	-	2	1	4	2	4	2	2	1	14	7
CHEMISTRY	1	-	1	1	3	2	4	2	4	2	2	1	15	8
MATHEMATICS	1	-	1	1	3	1	6	2	4	2	4	2	19	8
PHYSICS	1	1	1	-	3	2	6	3	4	2	2	1	17	9
ZOOLOGY	1	-	1	1	2	1	4	2	4	2	2	1	14	7
	5	2	5	3	12	8	24	11	20	10	12	6	79	39
<u>FACULTY OF SOCIAL SCIENCES</u>														
LANGUAGES & COMMUNICATION	1	-	1	-	3	-	6	3	2	1	2	1	15	5
DEVELOPMENT STUDIES	1	-	1	-	4	1	8	4	4	2	4	2	22	9
	2	0	2	0	7	1	14	7	6	3	6	3	37	14
TOTAL	13	3	13	8	44	22	87	49	50	25	43	21	250	127

ADMINISTRATIVE, CLERICAL, CATERING, TECHNICAL AND ANCILLARY STAFF

	SENIOR ADMINISTRATIVE STAFF		CLERICAL, CATERING AND TECHNICAL STAFF		ANCILLARY STAFF		TOTAL	
	DRT.	ACCT.	DRT.	ACCT.	DRT.	ACCT.	DRAFT	ACCEPTED
PRINCIPAL'S OFFICE	3	2	5	5	5	5	13	12
DEPUTY PRINCIPAL	1	3	1	3	3	15	5	21
REGISTRAR (ADM)	8	4	25	19	34	28	67	51
REGISTRAR (ACD)	8	4	21	16	17	13	46	33
SECURITY SERVICES	1	-	7	7	95	85	103	92
AUDIT SECTION	1	1	5	5	5	5	11	11
FINANCE DEPARTMENT	13	3	30	20	37	33	80	56
FINANCE STORES	-	-	8	9	36	31	44	40
LIBRARY DEPARTMENT	14	8	37	27	41	34	92	69
ESTATES DEPARTMENT	2	1	11	10	134	123	147	134
TRANSPORT SECTION	-	-	4	5	39	34	43	39
HEALTH CENTRE	2	1	22	15	14	13	38	29
CATERING DEPARTMENT	2	-	25	14	223	130	250	144
CAFETERIA SECTION	-	-	2	2	20	16	22	18
STUDENTS WELFARE	3	3	2	2	7	3	12	8
RESIDENTIAL SERVICES	-	-	20	6	126	48	146	54
FACULTY OF AGRICULTURE	3	1	41	17	149	97	193	115
FACULTY OF ENGINEERING	1	-	39	14	52	37	92	51
FACULTY OF SCIENCE	1	-	41	22	44	44	86	66
FACULTY OF SOCIAL SCIENCES	1	-	7	6	12	12	20	18
TOTAL	64	31	353	224	1,093	806	1,510	1,061

JICA